忘れられぬ印象

芥川龍之介

伊香保(いかほ)の事を書けと云ふ命令である。が、遺憾(ゐかん)ながら伊香保へは、高等学校時代に友だちと二人(ふたり)で、赤城山(あかぎさん)と妙義山(めうぎさん)へ登つた序(ついで)に、ちよいと一晩泊つた事があるだけなんだから、麗々(れいれい)しく書いて御眼(おめ)にかける程の事は何もない。第一どんな町で、どんな湯があつたか、それさへもう忘れてしまつた。唯(ただ)、朧(おぼろ)げに覚えてゐるのは、山に蔓(はびこ)る若葉の中を電車でむやみに上(のぼ)つて行つた事だけである。それから何とか云ふ宿屋へとまつたら、隣座敷に立派な紳士が泊り合せてゐて、その人が又非常に湯が好きだつたものだから、あくる日は朝から六度も一しよに風呂へ行つた。さうしたら

腹の底からへとへとにくたびれて、廊下を歩くのさへ大儀になつた。けれどもくたびれた儘で、安閑と宿屋へ尻を据ゑてもゐられないから、その日の暮方その紳士と三人で、高崎の停車場まで下つて来たが、さて停車場へ来てみると、我々の財布には上野までの汽車賃さへ残つてゐない。そこで甚恐縮しながら、その紳士に事情を話して、確か一円二十銭ばかり借用した。以上の如く伊香保と云つても、溪山の風光は更に覚えてゐないが、この紳士の記憶だけは温泉の話が出る度に必ず心に浮んで来る。何でも湯の中で話した所によると、この人は一人乗りの小さな自働車を製造したい

とか云ふ事だつた。今日の新聞で見ると、乗合自働車はもう出来たさうであるが、一人乗りの小さな自働車が出来たと云ふ噂はどこにもない。今ごろあの紳士はどうしてゐるかしら。

（大正八年八月）

底本：「筑摩全集類聚　芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
１９７１（昭和46）年６月５日初版第１刷発行
１９７９（昭和54）年４月10日初版第11刷発行
入力：土屋隆
校正：松永正敏
２００７年６月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。